



## 大嘗祭の鹿服調進について

結城孝典（友の会役員）

### 1. はじめに

私が住む吉野川市山川町では、私ども有志が協議会を立ち上げ、11月14日、15日に行われる令和の大嘗祭で、大嘗宮に供えられる「鹿服」という麻布を織る事業を進めています。

古代から阿波忌部氏が大嘗祭の年に、鹿服を準備していたことは、「古語拾遺」や「延喜式」といった平安時代の史料などから知ることができます。また博物館ニュース No.115 の「収蔵品紹介」でも関連事項がふれられています。今回、平成2年以來30年ぶりの事業なので、この機会に阿波忌部氏と鹿服について少し紹介したいと思います。

### 2. 大嘗祭と鹿服について

大嘗祭の起源は「新嘗の祭り」に由来するそうです。「新嘗の祭り」とは天皇がその年に収穫された米、粟などの穀物を天と地の神々に勧め、また、自らもこれを食べ、その年の収穫に感謝するという祭りです。今は毎年行われるのを新嘗祭、即位後初めて行われる新嘗祭を大嘗祭と呼び区別していますが、これは日本書紀によると第40代天武天皇の時（在位673年～686年）からのことです。以来、大嘗祭は一世に一度行われる極めて重要な皇位継承儀式とされ、歴代天皇は、即位後必ずそれを行うことが皇室の伝統となりました。

その大嘗祭では、神が着る衣服として鹿服と呼ばれる神聖な麻布が祀られます。鹿服は、大嘗宮の悠紀殿、主基殿のそれぞれに、愛知県（三河）の絹糸で織られた繪服とともに祀られることが延喜式にも記されています。

### 3. 阿波忌部氏について

阿波忌部氏について述べる前に、中臣氏とともに朝廷祭祀に重要な役割を果たした忌部氏についてふれておきます。忌部氏は朝廷祭祀を遂行するために、各地に部民という従属する人々を置きました。その代表的なものとしてあげられるのが、出雲、紀伊、阿波、讃岐の忌部（四大忌部）です。大嘗祭で供えられる鹿服を準備していたのが、阿波忌部氏です。

斎部広成の著した書物である「古語拾遺」（807年）には、阿波忌部氏が、穀や麻など繊維を利用する植物を栽培し、大嘗祭の年には、儀式に使用する繊維や鹿服、及び様々な供え物を納めており、それが、郡の名前を麻殖とする由来である、といったことが書かれています。また、「倭名類聚抄」（930年代成立）にも当時、麻殖郡には、正確な郷域は不明ですが「呉島郷」（鴨島町）、「川島郷」（川島町）、「忌部郷」（山川町山崎・忌部山等）、「射立郷」（山川町瀬詰・川田・川田山等）があると記されています。

こうしたことから阿波忌部氏は、古くから大嘗祭にあたり、鹿服をはじめ様々な供え物を準備するという役割を担い、その居住地として忌部郷があったということがわかります。

その後、南北朝時代の動乱で阿波からの鹿服の供納は中断され、大嘗祭が復活した江戸時代も、徳島



山崎忌部神社社殿

の籠服は納められていませんが、明治になり県をあげて熱心な取り組みが展開され、大正天皇の即位に際し、徳島が担う事業として復活をし、昭和、平成へとつなげてきました。

#### 4. 阿波忌部籠服調進協議会の活動について

こうした歴史をふまえて、我々は、昨年10月、阿波忌部籠服調進協議会を組織し、美馬市木屋平のNPO法人あらたえと連携・協議しながら、令和の大嘗祭に籠服を供納できるよう準備を進めているところです。

美馬市木屋平では大麻の栽培から麻糸になるまでを担当しています。4月に播種式が行われ、7月に収穫、数段階の加工作業を経て9月上旬には、麻糸が吉野川市山川町に届きます。その後、10月中旬頃をめどに籠服を織り上げることになっています。

現在、神社周辺の環境整備や儀式等行事の企画、織織技術の習得など準備作業を進めています。

#### 5. おわりに

以上、大嘗祭と籠服について述べてきましたが、大嘗祭に籠服を調進するという事業は、他地域にはない徳島独自のものであり、歴史的にも文化的にも大切な伝統行事であると思います。

それだけに、こうした伝統文化の継承をこれからの社会のあり方とともに考えていくことが、我々にとっては大切であると考えています。

最後になりましたが、吉野川市山川町での取り組みはこれからは本番であり、現時点での経過報告に

とどまることをお詫びすると同時に、事業成功に向けて頑張っまいりますので、今後とも皆さまのご理解、ご支援をどうかよろしくお願いいたします。

### 友の会行事報告

## 淡路日帰りバスツアー

- 日時 3月10日(日) 7:50～17:30
- 場所 ウェルネスパーク五色、旧益習館庭園、淡路文化史料館、洲本城跡  
(いずれも兵庫県洲本市)
- 担当 森 敏博(友の会役員)  
松永友和・植地岳彦(博物館学芸員)  
坂部公章(博物館係長)
- 参加者 31名

貸切バスで兵庫県洲本市にある博物館・名所を見学しました。

ウェルネスパーク五色では、高田屋顕彰館・歴史文化資料館にて、当地出身の偉人「高田屋嘉兵衛」について学びました。その後、同園内の工房にて、今回のツアーの目玉である、淡路瓦粘土を使った陶芸体験を行いました。参加したみなさんは、思い思いに工夫を凝らしてステキな小物入れを作っていました。後日、焼いてきれいな銀色になった作品が届けられたそうです。

その後、ほんの数週間前に国の名勝に指定された「旧益習館庭園」と「市立淡路文化史料館」を見学し、さらに「洲本城跡」まで足を伸ばしました。

雨のぱらつくあいにくの天気でしたが、徳島ともつながりの深い洲本の魅力を存分に満喫できた1日でした。  
(坂部公章)



山崎忌部神社の階段修復作業



高田屋顕彰館にて

## Voic<sup>e</sup> 参加者の声

### ●<sup>ごとういつき</sup>後藤一樹さん

ウェルネスパーク五色での陶芸体験では、オリジナルの作品ができました！そして、急に追加していただいたお城は、見はらしがよかったです。晴れてたらなおよかったです。ということで、今日はいろいろと楽しませていただきありがとうございました。来年度も行く予定にしています。よろしくお願ひします。楽しかったです。

### ●<sup>はら ひろと</sup>原 大翔さん

淡路かわらねんどのとうげい体験は、とてもいい体験でおもしろかったです。またしてみたいと思います。焼き上がりがどんな風になるか、作品の到着を楽しみにしています。これからも、体験ものをしてほしいと思います。

### ●<sup>みやうち かおる</sup>宮内 薫さん

拝啓。先日の淡路への一日は、ほんとうにお世話になりました。はじめは、折角<sup>せつかく</sup>の機会でありながら好天気ではなく、困ったことと思っておりました。しかし、道中すべて、そんな思いを凌ぐほどの体験となりました。高田屋嘉兵衛に関連してもゴローニンの件にしても、いま改めて頭の中に思いうかべております。ゴローニンについては、再度高田屋顕彰館内の売店で、1冊書籍を買い求めました。高田屋については、私はいつも大黒屋光太夫と混同してしまうのですが、今回連れて行ってもらって



陶芸体験のようす



旧益習館庭園にて

きちっとその区別がついたように思います。

さらに巨石庭園(旧益習館庭園)を訪れることができたのは、より大きい収穫でした。あの庭園造り事業は、その日の道中ずうーっと石舞台古墳(奈良)を頭の中に思い、それと比べておりました。そしてそれが稲田の家老の屋敷の庭に存在するとは、私はうかつにも知りませんでした。徳島県民としてもっと知っておくことだと思いました。

そして、私の家内の生まれた洲本市街を天主台<sup>ふかん</sup>から俯瞰できたのは、また最高でした。この研修会は、私にとって最高の体験でした。

追って。当日は博物館の先生方にはお世話になりました。悪天の中格別のお気遣いをされたことと思います。ありがとうございました。洲本市は、平素から関心がありながら行けておらず、長時間滞在できたのは何よりでした。『お登勢<sup>とせ</sup>』を再度読むことができれば・・・と思っております。



洲本城跡からの眺め

友の会行事報告

# 化石をさがそう！

- 日時 6月2日(日) 11:00～14:40
- 場所 兵庫県南あわじ市
- 担当 なかむら ゆか 中村由香 (友の会役員)  
つじの やすゆき なか おけい 辻野泰之・中尾賢一 (博物館学芸員)  
さかべ きみあき 坂部公章 (博物館係長)
- 参加者 41名

南あわじ市の海岸で、化石をさがしました。参加者は、そぼ降る雨をもものもしない熱気で、化石が入っていそうな岩や石にハンマーを振っていました。

今回はみなさんファミリーでの参加でした。成果としては、貝やエビの化石が多く見つかり、感動体験をかたちとしても残すことができました。終始和気あいあいとした雰囲気は漂う和やかなイベントとなりました。

## Voic<sup>e</sup> 参加者の声

### ●ふくずみりほさん

かいがらがいっぱいあったけど、いまのかいがらがいっぱいだった！ いまのはいはうちにもってかえた。かせきのかいもみつかったけど、いわがたたくてかいがとれなかった。でもかいがらがみられてよかった。さかみちはたいへんだったけど、いけてよかった。たのしかった。



発掘作業風景



これって化石ですか？

### ●かたべ にちか形部仁悠さん

淡路の海岸ぞいでは、二枚貝や植物の化石がよくとれることが分かりました。

行く前は、簡単に化石が見つかると思っていたけど、なかなか見つからなかったです。お母さんがぼくより先に化石を見つけたときは、少しくやしかったです。でも、自分で化石を見つけたときは、「やっとなれた！」と思い、とてもうれしかったです。

今度は、化石の勉強をして参加したいです。

### ●S. S. さん

はじめて石をかなづちで割り、中に化石がないかを探すのは、宝探しをするようで、夢中になって石を割っていました。

石の中から二枚貝や木の化石を発見することができ、とても楽しかったです。



子どもたちも真剣です

友の会行事報告

遺跡・古墳見学（石井町）

- 日 時 6月16日（日） 13:00～16:00
- 場 所 石井町（前山古墳群・曾我氏神社古墳群）
- 担 当 いしおかずひと 石尾和仁（友の会役員）  
うえちたけひこ 植地岳彦（博物館学芸員）
- 参加者 6名

名西郡石井町の前山公園駐車場に集合し、前山古墳群及び曾我氏神社古墳群を散策しました。前山古墳群に登る坂道の途中には眺望が開けたところもあり、眼下に広がる吉野川平野を眺めながら、縄文時代から弥生時代そして古墳時代初期の集落遺跡についての解説を聞きました。私たちは、往古の昔に思いをめぐらせることができました。標高約180mの尾根頂上部にある前山古墳群は茂みに被われつつあるものの、前方後円墳の墳丘が確認できました。いったん山を下った後、次に曾我氏神社古墳群に向かいました。曾我氏神社から奥への道も歩きやすく、ここでも墳丘の形状についてははっきりと確認することができました。

曇天だったこともあり、暑い日差しに苦しめられることもなく散策を楽しむことができた一日でした。

（石尾和仁）



見つけたよ！

●匿名希望さん

今回初参加でしたが、本物の化石を頑張って探す体験は親子ともにとっても面白く、（特に子どもは自分で見つけられたので）大喜びでした。

また、色々探し方や、どんな石が対象か教えていただけてよかったです。それから、実際探す時どんなものが化石が分かるように、泥岩に入った化石の見本を説明の時に見せていただけると探しやすいのでは？と思いました。

どうもありがとうございました。



参加者の皆さん



参加者の皆さん

## 前山古墳群と曾我氏神社古墳群について

今回訪れた前山古墳群と曾我氏神社古墳群は、博物館が発掘調査を実施しました。

前山古墳群は、石井町石井と徳島市入田町の境、四国山地から気延山山塊に続く尾根上にあります。1994年、四国電力送電線鉄塔工事に関連した遺跡分布調査において、徳島市教育委員会によって発見された古墳群で、全長約18mの小さな2つの前方後円墳で構成されています。前方部が端に向かって開いていく墳形であることから、古墳でも早い段階で構築されたものではないかと考えられています。

曾我氏神社古墳群は標高約50mの北に延びる尾根先端に位置し、2つの古墳で構成されています。1号墳は直径11mの円墳に、長さ幅共に3mの突出部があり、2つの埋葬施設が確認されています。2号墳は10m×12mの方墳で、1号墳より後に築かれました。2つの古墳は埋葬施設の構造や出土した副葬品から、古墳時代前期の古墳であることがわかりました。曾我氏神社古墳群から出土した鉄製品や銅製品は、博物館常設展示室で展示しています。

どちらの古墳群も、徳島の古墳時代前期を考える上で大変重要な古墳です。(植地岳彦)

### Voic<sup>e</sup> 参加者の声

#### ● かつうら みのる 勝浦 實さん

以前に博物館行事で、何度か古墳見学をさせて頂きました。今回は友の会行事、それも比較的近くであった為、参加させて頂きました。



鳴門・板野方面の眺め



山に分け入ると

昔の人はどんな思いで造ったのかなあ、又、どれくらいの時間をかけて造ったのかと想像するだけでも楽しくなりました。歩行距離も適当で良かったです。さすがに古墳は、学芸員さんが指定して説明してくださらないと分かりませんでした。又、日程等が合いましたら参加させて頂きます。宜しくお願いします。

#### ● かたべにちか 形部仁悠さん

見学をする前は、古墳はとても大きいものを想像していました。でも、思っていたよりも小さくておどろきました。古墳の大きさや形、棺の方角によって、そのときの王様の力等がわかることを知りました。

徳島県には、ほかにもたくさんの遺跡があることを教えてもらったので、ほかの所も見に行ってみようと思いました。



こんな所に古墳が

# 報 告

## 2019 年度総会

2019年度友の会総会は、4月21日(日)午後2時30分より博物館講座室にて開催しました。

2018年度の事業報告・決算報告並びに2019年度の事業計画案・予算案について、また、役員改選について、それぞれ審議した結果、すべて承認されました。

その後、2階部門展示室にて、茨木靖学芸員による部門展示「文化の森の植物～植物相の移り変わり～」の展示解説を行いました。

今年度は、友の会の行事を6回計画しています。ふるってご参加ください。

### 1. 2019年度友の会行事

- (1) 化石をさがそう! (終了)  
実施日: 6月2日(日)  
場 所: 兵庫県南あわじ市
- (2) 遺跡・古墳見学(石井町) (終了)  
実施日: 6月16日(日)  
場 所: 石井町
- (3) 那賀町日帰りバスツアー (終了)  
実施日: 7月20日(土)  
場 所: 阿波晩茶製造農家、川口ダム自然エネルギーミュージアム、相生森林美術館・相生ふるさと交流館(いずれも那賀町)
- (4) 夜の文化の森たんけん(昆虫・ブラックライトで光るものさがし) (終了)  
実施日: 7月27日(土)  
場 所: 文化の森総合公園
- (5) 大昔の火おこしを体験しよう!  
実施日: 10月26日(土)  
場 所: 文化の森総合公園
- (6) 高知日帰りバスツアー  
実施日: 12月7日(土)  
場 所: 高知県立牧野植物園、高知県立高知城歴史博物館(いずれも高知県高知市)

※実施日や場所については変更することがあります。会員の皆さまには月報等にて詳しくご案内させていただきますので、ご確認をよろしくお願いいたします。

### 2. 広報活動

- (1) 博物館広報印刷物(催し物案内、博物館ニュース、企画展チラシ等)を活用した情報発信を行います。
- (2) 館内掲示板「友の会コーナー」を活用した情報発信を行います。

- (3) 友の会HPを活用した情報発信を行います。
- (4) SNS(博物館フェイスブック)を活用した情報発信を行います。

### 3. 図録の印刷・販売

- (1) 企画展図録「とくしまの恐竜時代」を印刷・販売します。
- (2) 企画展図録「鳥居龍蔵と徳島」を印刷・販売します。
- (3) 博物館普及行事の会場にて、図録を販売します。
- (4) 展示会や掲示板等さまざまな機会・媒体を活用した図録の販売促進に努めます。

### 4. 友の会会報の原稿募集及び発行・配布

会報「アワーミュージアム」No.64・65を発行・配布します。

### 5. 会員募集

- (1) 会員勧誘用チラシ・ポスターを新規に作成し、各学校・施設等に配布します。
- (2) 催し物案内、博物館ニュース、企画展チラシ等を活用した会員募集に努めます。

### 6. 友の会グッズの販売

- (1) クリアファイル2種(ルイスハンミョウ、鶏時絵印籠)を販売します。
- (2) 友の会ポストカードを販売します。
- (3) 新たに友の会グッズを製作・販売します。

### 7. 友の会活動の活性化

- (1) 友の会行事参加者に、写真(紙焼きもしくはCD-R)を進呈します。
- (2) 友の会行事の応募方法を、往復はがき(従前)・はがき・ファクシミリ・電話に拡大します。
- (3) バスツアーにおける友の会行事参加費を、減額します。

### 8. 2019年度友の会役員(7月現在)

会 長: 行成正昭  
副 会 長: 大杉洋子・徳野壽治・新居美佐子(館長)  
幹 事: 森 敏博・幸坂敏行・結城孝典・本田壮一・坂井なつ  
監 査: 石尾和仁・中村由香  
顧 問: 鳥居 喬  
事務局長: 長谷川賢二(副館長)  
事務局員: 大橋俊雄(人文課長)・小川 誠(自然課長)・西川栄展(課長補佐)・坂部公章(係長)・茨木 靖(専門学芸員)・植地岳彦(主査兼係長)



## 新スタッフ紹介



### ●新居美佐子(館長)

みなさん、こんにちは。

5月に館長に就任しました新居美佐子と申します。県職員となって以来、文化の森総合公園は私の憩いの場所で、緑あふれる園内でのんびり散歩したり、本を読んだり、心の洗濯に訪れていました。そうそう、生まれて初めて石見神楽を見せていただいたのも文化の森のイベントでした。この大好きな場所に毎日通い働くことができるなんて、夢のようで、とても嬉しく思っています。

また、学芸員の皆さんが工夫を凝らして開催している企画展や部門展示、体験教室等の数々には興味津々、とりわけ友の会行事は楽しさ満点ではありませんか。参加される皆さんの楽しそうなお顔を拝見することが私の無上の喜びです。どうか皆さん、私たちの催し物に、どしどしご参加くださいね。

さて、来年は文化の森開園30周年に当たり、これを機に県立博物館の常設展の全面リニューアルを計画しています。

新常設展の基本方針は、『徳島まるづかみ！ーいのちと"とき"のモノ語りー昔・今・未来のとくしま』自然系、人文系をあわせもつ四国で唯一の総合博物館として、「生命(いのち)」が織りなし、「時(とき)」を超えて「過去(昔)」から「現在(今)」へと継承されてきた徳島の自然や歴史・文化を、実物資料(モノ)をもとに感じるとともに、未来の創造へとつながる展示を目指し、職員一丸となって知恵を絞っているところです。

徳島のすごさや素晴らしさを楽しく分かりやすく、そしてもっと知りたい方には更に深く学びあえる博物館となるよう努力して参ります。どうかよろしく願いいたします。



### ●井藤大樹(学芸員・脊椎動物担当)

2019年4月に脊椎動物担当学芸員に着任した井藤大樹と申します。出身は香川県小豆島ですが、2歳から8歳まで徳島の上八万町に住んでいました。徳島で幼稚園に通っていた当時からカエルやイモリといった生き物が好きで、小学生の頃は釣りや魚とりをして遊んでいました。徳島県立博物館にもよく遊びに行っていたことを今でも覚えています。

私の担当は脊椎動物ですが、その中でも淡水魚が専門です。私が淡水魚の研究を志したきっかけは、ずばり徳島にあります。小学生の夏休みに、よく両親に連れられて鮎喰川に泳ぎに行っていました。川底には、砂地で餌を探すシマドジョウや石の上でなわばりを主張するカワヨシノボリを見ることができ、そこから少し視線をあげればオイカワやカワムツの群れが太陽の光を受けてきらめいていました。幼いながらに、同じ場所にいるのになぜこんなに姿形や色、行動が違うのだろう、どうしてこんな姿形をしているのだろうと思っていました。そして、高校3年生の春、大学進学について考えている時に、徳島で見た川や魚を思い出し、淡水魚やその保護について勉強できる大学に進学しようと思立しました。

大学・大学院では、淡水魚の分類や進化、保護について研究し、生物が見せる多様な姿形や色、またその成り立ちにすっかり魅了されました。徳島がきっかけでこの世界に飛び込んだ私が、こうして徳島県立博物館で働くことになり、不思議な縁を感じています。面白くも美しい生き物たちの魅力や徳島の自然の素晴らしさを皆様に伝えられるよう、励んでまいりますので、どうぞよろしく願います。



## アワーミュージアム 第64号

2019年7月31日発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197  
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp